

関西建築家新人賞



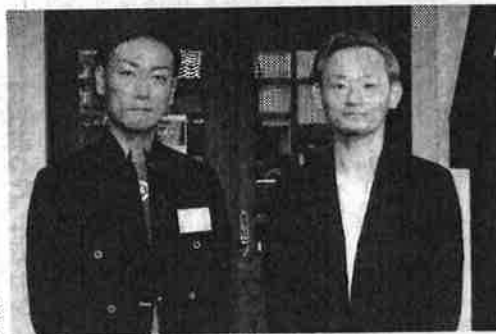
佐井寺のハナレ (撮影・笹倉洋平・笹の倉舎)



houseA/shopB (撮影・新建築写真部)

JIA近畿 出江、木村両氏を選出

日本建築家協会近畿支部（JIA近畿、井上久美支部長）は13日、第12回関西建築家新人賞の受賞者を発表した。外壁の杉板鱗張りとした彫刻的な造形が印象的な「佐井寺のハナレ」を設計した出江潤氏（浅野・出江建築事務所）と、京都特有の細長い敷地に金属工芸の



木村氏（左）と出江氏

プロジェクト。はじめは母屋と隣接する駐車場を隔てる塀の依頼だったが、塀と一体となった離れの増築と母屋屋根裏の改修を提案した。離れの庭から見える山並みも造形物ととらえ、離れ自体にも多面体の造形を取り入れている。

houseA/shopB（京都市）は、木造軸組と木造ラーメン構造を組み合わせ、上質茂通りに沿った町家の敷地に3つの要素を盛り込んでいる。外装にガラスやFRPの折板を活用して採光し、明るい空間を実現している。

14日に滋賀県近江八幡市で開いた会見で出江氏は受賞に対し「うれしい一方で、身の引き締まる思い。今後も持続性のある作品をつくってきたい」と話した。木村氏は「作品をつくるたび不安にさいなまれる。こつやって第3者に評価していただけることは大変光栄なこと」と喜びを語った。

アトリエ、カフェ、住宅の機能を無理なく詰め込んだ「houseA/shopB」を手掛けた木村吉成氏（木村松本建築設計事務所）の2人を選出した。

佐井寺のハナレ（大阪府吹田市）は、古い母屋の天井裏改修（ガストハウス化）と増築（離れ）のプ

井上支部長は「建築家の顕彰は支部にとって重要な活動。これを内輪だけにとどめず、外部に発信していきたい。受賞された2人には、これを機に支部活動に積極的に参加してほしい」と声を掛けた。